



代っ子通信

令和6年10月15日

〈第29号〉

校長 平塚智康

4年生 総合的な学習

「わたしもみんなも幸せになるまちづくり」

4年生は総合的な学習の時間に「わたしもみんなも幸せになるまちづくり」というテーマで福祉について学んでいます。10月2日（水）には、山代地区の高齢者事業所職員のキャラバンメイトの皆さんを講師として、「高齢者ふれあい講座」の体験学習を行いました。

子どもたちは、車いすや白内障眼鏡、腰ベルトなどを使って、高齢者の身体の特徴や介助を体験しながら、お年寄りの気持ちや認知症などについて理解を深めることができました。



〈車いす体験〉



〈高齢者の身体の疑似体験〉

4の1 ○○ ○○

キャラバンメイトの先生のお話を聞いて、白内しょうがとても大変な病気だということがわかりました。とくに、火がついているかどうか分からないことが大変だと思いました。

よくおじいちゃん、おばあちゃんが「いたたた…」と言っていて「なにを言っているんだろうな？」と思っていたけど、じっさいに体験してみるととても大変でとてもおどろきました。車いす体験はなかなか一人でこげなくてびっくりしました。車いす体験がとても大変だったので、こまっているおじいちゃんやおばあちゃんがいたら、手つだったり、やくにたちたいです。

4の2 ○○ ○○

高れい者の方は、味がわかりにくいということが分かった。高れい者の方は、白内障でわたしたちより見えにくいことが分かった。また、運動や免疫のはたらきがとても低下していることも分かった。

車いすで自分でこぐとき、だんさがとてもむずかしくて、人におしてもらおうと楽だと感じました。腰かがめベルトの体験は、とても腰がいたくて、高れい者の方はとてもたいへんな思いをしていることが分かりました。

高れい者の方の心身の特ちょうが分かったので、高れい者の方には、やさしくゆっくりはっきりした言葉で話し、もっと高れい者の方にやさしくしようと思いました。

403 〇〇 〇〇

高れい者の方はほねの中がスカスカで、ちょっとした事でこっせつすることがおどろきました。後ろから声をかけてよぶのがふつうだと思ったけど、高れい者は後ろから声をかけるとびっくりしてころんだりすることも分かりました。

腰ベルトをしてみて、高れい者は腰がいたくなったり、うまく歩けないことが分かりました。白内障めがねをしてみて、黄色が見にくかったし、赤色が茶色に見えました。

高れい者の方が安心できる接し方を学んだので、これからは高れい者の方にやさしく気をつけて話せたらいいなと思います。



4年生は、この後、障害への理解を深める学習、地域のお年寄りと交流する学習などに取り組んでいきます。10月9日には、山代にお住いで視覚に障害のある富田さん（盲導犬もいっしょに）や点字ボランティア団体「アイパル」さんを講師として、お話を聞いたり、アイマスク体験をしたり、点字を学んだりして、視覚に障害のある人の生活への理解を深めました。（下の写真）

「わたしもみんなも幸せになるまちづくり」のために、どんなまちづくりをすすめていったらよいか？自分にできることはどんなことなのか？4年生には一生懸命考えてほしいと思います。これからの学習が楽しみです。がんばれ4年生！



＜視覚障害のある方や盲導犬との交流＞



＜アイマスク体験＞

介助体験、福祉に理解
加賀・山代小

加賀市山代小の高齢者ふれあい講座は2日、同校で開かれ、4年生78人が車いすや白内障眼鏡、腰ベルトを使って高齢者の身体の特徴や介助を体験し、福祉について学んだ。

山代地区の高齢者事業所職員らからボランティア7人が講師を務め、車いすの使い方や介助の方法を教えた。児童は3クラス別に受講し、2人一組で交代して体験学習に取り組んだ。

車いすを使って介助を体験する児童
加賀市山代小

＜北國新聞 10月3日朝刊＞

白内障や車いすの扱い 山代小児童学ぶ

高齢者ふれあい講座
高齢者の体についての理解を深める「高齢者ふれあい講座」が、加賀市山代小

学校であった。4年生78人が車いすの扱い方や白内障について学んだ。

山代地区の高齢者福祉施設の職員7人が講師を務めた。子どもたちは体育館に置かれたコーンやマットなどを曲がり角や段差に見立てて、車いすに乗る体験をした。認知症や白内障についても学び、最後に認知症について理解を深め、地域で手助けする「認知症サポーター」に任命された。

手足や腰がまっすぐ伸びきらない「腰ベルト」の体験をした坂野己徹さん(10)は「高齢者はいつもこんなにつらいんだな」と思った」と話した。（山脇彩佳）

高齢者の体について学ぶ子どもたち＝加賀市山代小で

＜北陸中日新聞 10月8日朝刊＞